

氏名	花岡義行
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第5450号
学位授与の日付	平成29年3月24日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	A ten-year follow-up cohort study of childhood epilepsy: Changes in epilepsy diagnosis with age (小児てんかん患者における10年間のfollow-up研究：てんかん診断の経時的変化)
論文審査委員	教授 山田了士 教授 浅沼幹人 准教授 寺田整司

学位論文内容の要旨

小児てんかんの特徴を明らかにするため、岡山大学病院を受診した岡山県在住の小児てんかん患者を10年間追跡した。1999年12月31日の疫学調査に含まれ、これ以降にも同院を受診した13歳未満の小児てんかん患者は350例であり、10年後まで追跡できたのが258例、死亡が10例、追跡不能が82例であった。258例中153例(59.3%)が10年後の時点で5年以上の発作抑制を認めた。130例(50.4%)に知的障害、77例(29.8%)に運動障害、75例(29.1%)に両障害を認めた。34例(9.7%)で経過中にてんかん分類が変更された。死亡した10例中8例は重度な基礎疾患を有した。小児てんかんの臨床状態は経時的に変化するため、長期的な評価が必要である。特にてんかん分類の変化を把握することは、治療の上でも重要である。その点において、本研究は小児てんかんの実態解明の一助になったと思われる。

論文審査結果の要旨

本研究は、1999年のOkaら岡山大学発達神経病態学による岡山県の小児てんかんの貴重な疫学調査に基づき、その10年後の2009年12月31日時点での追跡調査を行ったものである。小児のてんかんは、年齢や経過に伴ってその病態が変化しやすく、転帰も治癒するものから大きな障害を残すものまで多岐にわたるが、その経過の実態は十分に解明されていない。本研究はその実態の一端を俯瞰するものとして意義のある研究であり、今後の小児てんかんの臨床と研究にとって価値の高い報告として重用されるものと期待される。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。